

学校だより 2月号

平成 29 年 2 月 1 日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL <http://koya-e.konosu.ed.jp>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

「遊びの中にたくさんの学びがある」 ～昔遊びの授業を通して感じたこと～

校 長 渡辺 勝徳

寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしですか？本校では1月第3週あたりからインフルエンザが少しずつ流行りだし、第4週には4、6年生が学年閉鎖になりました。今は、インフルエンザに罹患している人は少しずつ減ってきていますが、皆様もお気をつけください。インフルエンザが流行っている時期には、発熱した場合は周りの人に感染しますから頑張らせないで、お休みさせてください。よろしくお願いします。

さて、1月26日（木）に長寿会の皆様10人を講師にお願いして、1・2年生の「昔遊びをしよう」という授業を行いました。体育館で、昔遊びのブースをつくり、子どもたちがそれぞれのブースに行き、長寿会の皆様に教わって、遊ぶという授業です。ブースには「コマ回し・ベーゴマ」「お手玉」「おはじき・ビー玉」「けん玉」「羽根つき」等があり、そのほかにだるま落としや糸電話もありました。どれも、私が子どものころには普通にあった遊びで、その当時は私にとっては、「昔遊び」ではなく、最先端の「遊び」でした。子どもたちが遊んでいる様子を見てみると、意外にも夢中で遊んでいました。「コマ回し」では紐をコマにうまく巻けない子が何人もいました。「けん玉」もあまりうまくありません。「羽根つき」に至っては、サーブの段階で、空振りや羽子板を横に振ってサーブをしようとしていたりしています。しばらくすると、子どもが「校長先生、いっしょに羽根つきをやりましょう」と誘いに来てくれました。私は子どものころ、羽根つきは得意だったので、いいところを見せてやろうと思って、「サーブは羽子板を下から上に降って、羽子板が羽のところまで来たら羽を放すんだよ」などと、子どもの手を取りながら、教えてからやっと羽を打つことになりました。今の子だから、きつときちんと羽を打てないんだろうなと内心思いながら羽根つきが始まりました。すると、私がサーブはよくできるのですが、なんと驚いたことに相手が打った羽をうまく打てません。おまけに空振りまで出る始末。子どものころに持っていたイメージと今の実際の動きが一致しません。「あれっ、おかしい」と思いながら続けること5分。やっと、昔の感覚で打てるようになってきました。子どもはというと、これがうまいのです。1年生なのに、ちゃんと打ち返してくる。そこで、「やったことあるの？」と聞くと、「幼稚園の時に少しやったことがある」とのこと。他の子どもたちに目をやると、はじめはサーブもできなかった子たちが、羽を落とさないで続けて羽根つきをやっているではありませんか。すごい上達ぶりです。しかも、一緒に遊ぶ人数が2人1組から4人1組に増えてたり、他の子に教える子が出てきたり、仲良く遊ぶ人数がいつの間にか増えてきました。「あ、これは私たちが子どものころに遊んでいた景色だ」と思わず心の中で叫び、懐かしくなりました。

前任校で放課後に子どもたちの遊んでいる所に見回りに行ったときに、何人かの子どもが公園のベンチに座り、ゲーム機を使って遊んでいました。コンビニの前でもゲーム機を使って遊んでいる子どもたちの姿を見ました。いずれも無言で、一緒に遊んでいるのですが、子ども同士のからみがないように感じました。話もしないし、体も動かさない、リーダーもいなそうだし、友だちという意味があるのかなあと心配になったことを思い出しました（もちろん、対戦とかしているのも友達という意味があるらしいですが、話をしたり、何かをやるということはなさそうでした）。

私たち昔の子どもは遊びを通して、人間関係を学んだり、工夫することを学んだり、やっていいことやいけないことなどを学んだり、違うクラスの子と友だちになったりしました。そういうことが、昔遊びにたくさん含まれていたのだなぁと改めて思いました。

これからの時代は、少子高齢化で人口がどんどん減っていきます。少ない人数の中で、いかに人と人が手を取り合って、工夫して生活していくかが今よりもっと必要になることと思います。昔遊びの中にこれからの時代によりよく生きていくためのヒントが隠されているかもしれないと思った、今日の授業でした。長寿会の皆様、ありがとうございました。

<お知らせ>

昨年11月に米づくりでお世話になっている小林農園様から、給食用の精米を100キログラムご寄付いただき、12月と1月の途中までの給食でいただきました。毎年小林さんには子どもたちのためにお米をいただいております。心から感謝申し上げます。